１．事業の背景・目的

１−１　背景

都市の中で、孤独死や行き場の無い高齢者が増えている。

当法人のパートナー団体『もったいないおばさんのたまりば』（当法人の副理事長が代表を務めている）は、2006 年以来大規模団地の中で一人暮らし高齢者等に食事を提供するコミュニティ食堂を運営してきたが、この十年間で高齢化はさらに進行し、ますますその重要性は高まっている。

しかしながら、コミュニティ食堂（日中のみ）を利用するのは女性高齢者が殆どであり、男性高齢者の行き場が少ないことが未解決の課題である。また、高齢者のみの居場所には活気が不足しがちであり、加えて団地の他世代との交流が進まない。

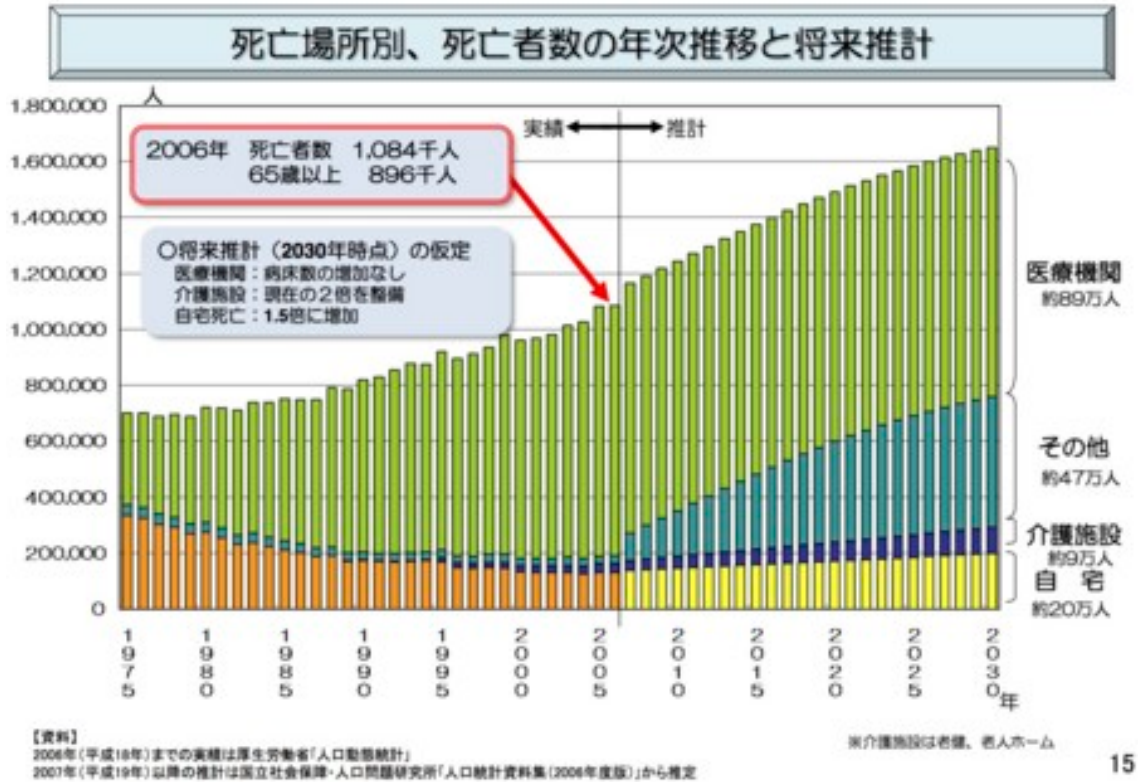
今や市民・国民一体となって、高齢者や要援護者の見守りに心配りしなければならない時代の中で、
“女性だけ”や“高齢者だけ”の居場所づくりでは、お世話役を担う支援者側の負担が増すばかりである。

介護事業者などの「一方的にサービスを与えるだけのデイサービス」のタイプではなく、「高齢者がより主体的に参加できる」、「高齢者だけでなく他の世代も出入りできる」、「女性だけでなく男性にも楽しみや生き甲斐となる」ような居場所づくりが急務である。

加えて、厚労省が近年発表した「高齢者の死に場所」の問題への対応も大きな課題である。
15 年後には年間 160 万人の死亡者の中で 50 万人近い方（死亡者の３割）が「自宅、病院、施設のいずれでもない場所で亡くなる」とされている。孤独死や行き倒れの問題が目の前に迫っているのだ。この問題に対応していくため、高齢者自身に「終活」や「リビングウィル」などについて学んでもらうことが必要である。

過度な終末期医療に依存せず、みんなに見守られながら人生最後の時期の暮らしを送ることができる、ささやかではあるがそういう環境を実現していくことのできる地域、「安心して死ねるまちづくり」を目指す活動が求められている。

地域コミュニティの実態が希薄になった現在、「地域に残された、地域こそが取組むべき最大の課題」は、「防災」と本活動のテーマにもつながる「高齢者の看取り」でしかないだろう。



上の図は、厚労省の発表した死亡場所別死亡者数の推移と将来推計データである。

今後１０年間余、死亡者数は世界に類を見ないペースの高齢化とともに増加の一途を辿るが、医療機関で死ねる人数は高齢者医療費問題もあって増やせない。

自宅という選択肢も、核家族化・単身世帯化が進行したゆえ、大きく増えることはない。

「その他」、即ち病院でも自宅でも施設でも看取られることのない死が急増する。

地域社会の協力体制のもと、老人ホームでの看取りを（可能であれば自宅での看取りも）増やしていく以外に方策は無いものと懸念されている。

１−２　本事業の目的

広島の都心部超高齢化団地基町団地、及び郊外の“高齢化ニュータウン”高陽団地等を舞台に、誰でも参加できる多様な居場所や表現活動の場を提供しながら、将来のナラティブ介護社会の実現に資するための高齢者の人生の聴き取りや、リビングウィルの確認等を行い、高齢者たちに“前向きに見つめる死とは”を学んでもらうこと、そして最終的には「あんな最期を迎えたい」と多くの高齢者の共感を呼ぶような週末のモデルを発見し全国に投げかけていくことが、この事業の最大の目的である。また、こうした動きを全国に向けて発信していくことで、過度な終末期延命治療に頼る風潮を食い止めるために寄与することも重要な目的のひとつである。

２．地域における活動の報告

２−１　顔と顔が繋がる多様な形態の居場所づくり

（１）常設・日中のコミュニティ食堂運営（毎週月～金、10 時～15 時）

- 場所：基町 19-2-462 店舗、及び高陽団地（亀崎 4-12-1：毎週金曜のみ）
- 年金高齢者でも毎日利用できる低価格食堂（フードバンクの支援による）を継続・実施している。
- 2018 年 4 月～2019 年 3 月の半年間で約 240 日営業することができた。
- 利用者は、延約 2,800 人（基町 2400 人、高陽 400 人）であった。

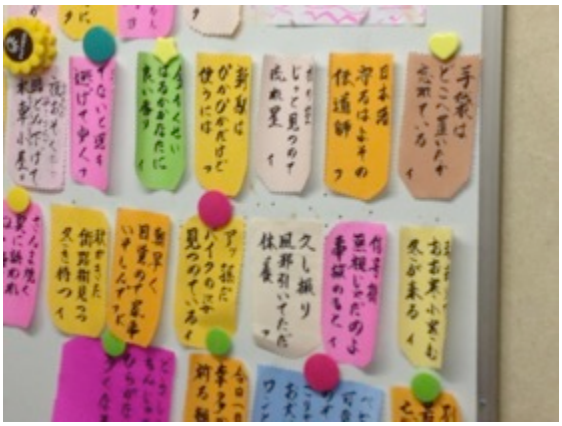
コミュニティ食堂

基町 19-2-462 店（左）

高陽亀崎 4-12-1（右）

（２）川柳の会（コミュニティ食堂をベースに毎月開催）

- 場所：基町１９−２−４６２店舗



（３）自己表現祭りの開催その１・・・秋の祭りと演奏会

2018 年 9 月 29 日午前の部【自己表現活動発表会】

- 基町団地中央集会所にて開催（10 時～１２時）
- 民謡、踊り、三味線や尺八の演奏の発表会。
- 参加者５０名

・　この後、午後に『TS さんをモデルとした第１回模擬生前葬』を開催。

（４）自己表現祭りの開催その２・・・春の祭りと演奏会（『基町の片隅演芸会』）

2019 年 3 月２１日 10 時～13 時

・　雨天の中、基町ショッピングセンター中央広場で開催

・　若者・青年たちのまちづくりグループと共同開催

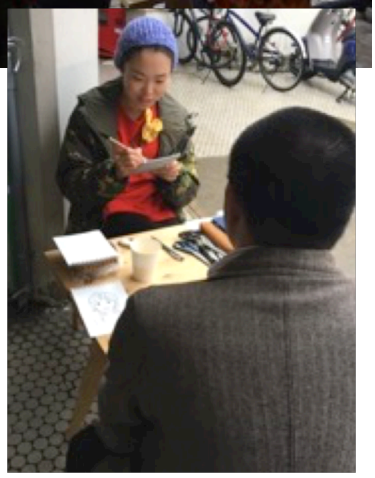
・　雨天にもかかわらず参加者は 150 人

・ 熟年たちのスーパーチンドン屋がオープニングのお知らせ
・ スーパーチンドン、商店街の中のデイサービスに訪問

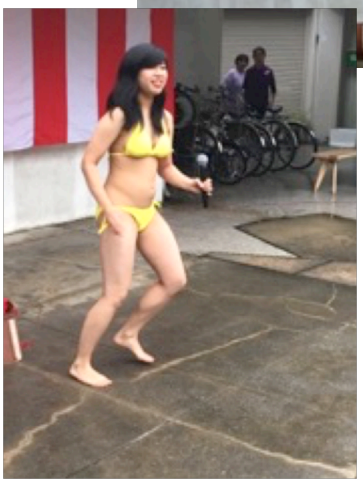
三味線楽団と歌のステージ

どじょうすくい踊りの披露

即興似顔絵描きコーナー



若きお笑いエンターティナー七瀬かおりショー



三橋とらの昔懐かし街頭紙芝居コーナーと人生劇場紙芝居

サンドイッチのワゴン販売

若者たちの飲み物サービスコーナー

春の祭り付帯イベント

●平和学習会

広島の大人と若者、沖縄の青年（不登校支援・子育て団体の代表）、広島陸軍幼年学校の出身者、阿南陸軍大臣の孫（札幌学院大学大國教授）他

「広島の若者も大人たちも、戦争を語らない。原爆の前に戦争をわからなかったら、何にもならない。みんな理解していないんじゃないのか」。

基町に育った若者の課題提起から『第１回ミニ平和学習会』を開催した。

●広島市内平和学習ツアー

原爆の背景には、「広島は軍都」だったことが大きく影響している。その軍都の歴史を知らずして原爆を語っても説得力は弱い。我が国から海外への陸軍出兵は、ほとんどが広島宇品港からであった。宇品線跡、宇品港、そして被服工廠などその概況を学習するツアーを実施した。

（５）夜の異世代交流会の開催（夜の交流居酒屋）（実績：月１回程度）

老と孫の世代がつながる居場所『龍馬塾老孫（ローソン）プレイス』を維持・確保してきた。この成果が NHK から注目されることとなり、2018 年 5 月に番組取材された。

２−２　自分の来し方を見つめる・お互いの人生を評価する「自己表現や終末を考える勉強会」の開催・・・（毎月１回程度）

（１）人生の来し方を歌から振り返る会

音楽好き、歌好きの人は「歌」で人生を振り返ることができる。
構えがちなヒアリングも、歌を歌いながらのおしゃべりになると、心の鎧も脱

ぎやすくなる。

毎月１回程度、歌を通したヒアリング調査を重ねた。

・場所：基町 19-2-462 店舗、19-2-460 店舗他

なお、このヒアリングの成果として、１名の方の人生を『人生の来し方：時間と空間のチャート図（時空チャート図)』にまとめた（巻末に掲載)。

このチャート図は、語り手（高齢者）が聴き手（調査者）を信頼して語ってくれた内容を整理したもので、加工せずにこのまま外部に公開するべきものではないが、ここではほぼ原型のままを資料として提出する（取扱い注意)。

このチャート図は、今後介護や看護の分野において“ナラティブなケア”を推進していくための手法の一つとして、世に発信していく予定である。

この語り手は、ヒアリングを続ける中で、「死亡時の遺体の始末」や「葬祭（送りの会）の開催の内容」についても希望を語ることとなった（既にこの時点で２−３のリビングウィルの表明まで到達している)。

また、「歌から思い出す人生の来し方」の調査に関しては、「１０年毎に１０曲を思い出す」方式（１０年毎に５曲でも可）ではないかと考えられた。

今後 10〜3 月期においては、「１０年毎１０曲方式（あるいは５曲方式、３曲方式)」にチャレンジしていく所存である。

なお、６０代の方の「１０年前１０曲」のリストを事例として示す。

Decade	曲名	
〜10 歳	花かげ	お祭りマンボ（美空ひばり）
	買い物ブギ（笠置シヅ子）	潮来笠（橋幸夫）
	エイトマン（克美しげる）	蛍の光
	聖しこの夜	主人は冷たき土の下に

	我は海の子	白い色は恋人の色（Betsy & Chris）
～20 歳	500miles	恋のジプシー（Nada）
	禁じられた遊び	岬めぐり（山本コータロー）
	眼をとじて（かぐや姫）	Beautiful dreamer
	花祭	El condor pasa
	時代（中島みゆき）	遍路（中島みゆき）
～30 歳	夢想花（円広志）	踊り子（下田逸郎）
	夢見る思い（ジリオラ・チンクエッティ）	僕の胸でおやすみ（かぐや姫）
	Love me with all of your heart（エンゲルベルト・フンパーディンク）、	Che sara
	Down under（Men at work）	panish dance No.5
	Gone the rainbow（peter paul & mary）	The cruel war（peter paul & mary）
～40 歳	Annie Laurie	Ye banks & breas o bonnie Doon
	椿姫より乾杯の歌	愛の妙薬より Una fultiva Lagrima
	Thomas the tank engine & friends	愛の歓び
	God save the Queen	アメリカインディアンの教え（子門真人）
	ユイマール	大阪しぐれ（都はるみ）
～50 歳	僕の中の君（Betsy & Chris）	すべての人の心に花を（喜納昌吉）
	ヨイトマケの唄（丸山明宏）	イラヨイ月夜浜（ビギン）
	銀の龍の背に乗って（中島みゆき）	stille naght　Heilige nacht
	赤ゆら（大島保克）	手紙（アンジェラ アキ）
	贈る言葉（海援隊）	いつも何度でも（千と千尋の神隠し）
～60 歳	崖の上のポニョ	Try to remember
	Le temps des cerises	We three kings
	Auld lang syne	花は咲く
	Wild mountain tyme	I am Australian
	Coming through the Rye	唇をかみしめて（吉田拓郎）
60 歳～	仰げば尊し	人として（海援隊）

それぞれの曲の向こう側には、関係のあった、あるいは大切な人の顔や、人生折々の出来事がある。その歌を通して歌の背景をヒアリングすることが、その人の人となりや人生の来し方を調査する上で効果的であると思われる。

２−３　最後まで生き生きと生きるための「リビングウィルづくりとそのシェアのための勉強会」等

（１）「リビングウィルづくりとそのシェアのための勉強会」

当初は、「リビングウィルづくりとそのシェアのための勉強会」を行うことを計画していたが、テーマが唐突すぎるとの批判もあり、２−２の人生振り返り会の中で、自然なリビングウィルの意思表明を促すこととした。

（２）「あんな死に方がいいなあ」と言われる『最期のモデル探し』調査

リビングウィルの表明、このことだけに焦点を当てると、単に昨今流行りの「終活」勉強会となってしまう。

本事業における、「リビングウィルづくりとそのシェアのための勉強会」とは、人生の事務的な終わり方・締めくくりの方法ではなく、“生き様の貫きかた”、或いはその“表明・表現の仕方”を求めるためのものであると考えている。

そこで、その目標に近づくための手段として、**『最期のモデル探し』調査**が適当であると考えた。

リビングウィル通りの最期を迎えた２名（いずれも８０代の男女）を含む計５名についてヒアリング調査を行い、整理した。

次年度以降は、こうした“モデル候補”の中から、一般人にもわかりやすい・伝わりやすい「人生の物語：生き様・死に方」をまとめ、それを発信していくことによって、他の方々にもリビングウィルを考えてもらうための契機を提供して行きたい。

居住地	年齢	性別	要介護度	住まい	家族	ヒアリング回数	健康状態	延命治療や看取りに関する意思表明	葬儀や埋葬等に関する意思表明	家族の理解・同意等	人生の来し方を読み取る キーワード	備考
広島市	83	女	自立	自宅	別居	5	健康	・回復の見込みのない場合、延命治療は不要。 ・好きな人たちに囲まれて死にたい。	・白菊会に兼帯する契約を結んでいる。 ・遺体が病院へ行く前に、一晩だけ、好きな人々に囲まれていたい。その宴の手配を家族ではなく知人の男性に頼んだ。	家族（娘）は、献体のことも、通夜のことも承知している。	・勉強・向学心 ・恋心 ・美青年との結婚 ・夫の事故と障害 ・姉の夫との恋 ・離婚 ・広島へ逃避行 ・娘との生活 ・サラリーマンに ・一人で欧州へ ・再婚 ・夫との死別 ・新しい疑似家族 ・人生いつも歌	・民謡教室主宰 ・NPO法人理事
広島市	86	女	自立	自宅	なし	4	・平成元年に脳腫瘍で手術 ・以降全身各所に癌が転移 ・しかし死に至らず ・要介護・支援の判定までには至らない	複数箇所の癌があり、長期にわたって病院で治療を受けているため、病院で最期を迎えるのではないかと思っている。	・子どもがいないため、あらかじめ葬儀社に葬儀と埋葬の手配は済ませている	なし	・戦争 ・旧家の困窮 ・原爆後死体を焼く勤労奉仕 ・恋、駆け落ち ・仕事 ・男の裏切り、離別 ・幽霊との付合い ・引越、独居生活 ・人生節々に歌	
広島市	76	女	自立	自宅	同居・別居	4	健康	まずは病弱の夫のことがあるので、自分のことはまだ考えていない。	夫と一緒の仏壇やお墓だと思う	子どもたちとはまだ話していない	・台湾からの引揚げ ・警察官だった父親の苦労 ・貧しさの中で明るく ・結婚、子育て ・広島への引越 ・ボランティア活動への参加	・NPO法人理事
広島県三次市	89	男	自立	自宅	同居・別居	2	良好だと思われていたが肝臓癌が発見され急逝	妻に影響を受け、10年前から自宅での看取りを明言	信仰している浄土真宗の仏壇と墓に入る	・妻とは同じ考え方 ・子どもたちには既に言い聞かせている	・勉強 ・満州 ・銃殺刑、満人の仲間 ・引揚げ ・貧しさ ・農業、 ・地方議員 ・篤農家活動 ・日中友好活動	・地域の農業リーダー ・議員 ・2017年3月死去 ・本人の人生遺言ノートと遺族（娘）からのヒアリングによる調査
広島県三次市	89	女	自立	自宅	同居・別居	2	良好だと思われていたが、すい臓がんにより急逝	20年以上前から自宅での看取りを明言	夫と同じ浄土真宗の仏壇と墓に入る	・夫とは同じ考え方 ・子どもたちには既に言い聞かせている	・不在がちな夫への不満 ・山菜、こんにゃく、どぶろく造り ・娘たちへの伝授 ・家を守る ・石見神楽、歌舞音曲	・2017年10月死去 ・自家撮影終末期ビデオ資料と遺族（娘）からのヒアリングによる調査

２−４　節目のイベント『模擬生前葬』

半年間の活動の集大成として、本事業において中心的役割を果たしてくれた高齢者１名をモデルにして、新しい葬送のモデルを提案すべく、模擬葬儀ワークショップとしての生前葬を実施した。

生前葬だけを単独で行うのではなく、「自己表現・発表や地域の祭り・イベント等を兼ねた**歌と演奏の発表会**」を開催し、そのイベントに加える形で模擬生前葬を行った。

生前葬は、お葬式よりも「人生の来し方発表：合同コンサート」のスタイルで、音楽とその背景にある時代や生き方の貫き方等をクローズアップするものとして実施した。

- 日時：2018 年 9 月 29 日（土曜日）１２時〜１３時
- 場所：基町中央集会所
- 参加者：約５０名

模擬生前葬は、次のステップで進行した。

❶ 生前葬をやることの意味、今回の事業の意義の説明

本当は誰だって自分の人生を聞いて欲しいし、肯定して欲しい。

❷ 本人の人生の来し方を『人生劇場紙芝居』（別途添付）で語る

辛かったこと、厳しかったことこそ、それを乗り越えられたときには、一番いい人生の思い出になっている。でも、この方の一番素晴らしかったところは、苦労を乗り越えたことよりも、むしろ「好奇心をおしころさないで、どんなことにも果敢に挑戦したこと」ではないでしょうか。それが私たちの胸を打ちます（ご本人も涙を浮かべていらっしゃいます)。

❸ 本人が子供時代や若者時代に好きだった唱歌を数曲合唱する

演歌ではないんだよね。やっぱり童謡、そして唱歌を思い出すよ。

❹ 学識者から「弔辞」に相当するコメントをいただく

今日の仏さん（まだお元気ですが)、まだ１０年２０年はお元気のようです。今日の生前葬は「老後」から「ポスト老後」、さらには「スーパー老後」と呼ぶべき年代に向けて、再度生きるエネルギーを注入するかのような機会だったのではないでしょうか。参加者の皆さんも生前葬をやってみませんか。

❺ ５０歳下の友人と、８２歳下の友人から花束贈呈。

ご本人は、もう涙涙で二人とハグをしました。

この模擬生前葬終了後、約５０名の参加者に対してアンケート調査を行った。

回答を回収できたのは１１名にすぎなかったが、そのうち６名が「自分の人生の話を家族や友人、あるいはそれ以外の人に聞いて欲しい」と回答した。

また生前葬の際、「人生の歌」を歌って欲しい、歌いたいと回答した人も１０名に上った。

２−５　他の地域への波及

これまで咲良の会では、一人一人の人生の来し方の中にストーリーがあり、一人一人の人生の終わりには、その人に相応しい最期のステージがあるべきであるとの確信の下に、『人生劇場紙芝居』、『人生の来し方を歌から振り返る会』、『模擬生前葬』などに取り組んできたが、その流れが一部他の地域にも飛び火することとなった。

北海道十勝振興局長の目に留まり、北海道の十勝地方において『人生劇場紙芝居』の普及に取り組みたいという申し出があった。

２０１８年度は、最初のシンポジウムと紙芝居公演が催されることとなり、当法人からは谷副理事長、倉原理事、山本理事、橘事務局員が参加した。